

中華人民共和国の考察

黒田インターナショナル

黒田 毅

歴史は、その盛衰を有し、歴史を知ることが、未来を知る。至義を得、その盛衰は、酒池肉林を有する。

その現実には幻を求めず、今日に至る。今日、その軍と産業は、自己の基盤である、中華思想を経て、世界と対峙する。

義は、偽りを求めず、偽善は、現実における栄華の前に、自己を幻とする。

これが国家の永続である。知恵あるものは、歴史に学ぶのである。

世界は西洋が、その正義と所有において、王を有するのである。東洋の盟主は、中華であり、日本の第2次世界大戦における稚拙さでない、その中華の真髄における最終決戦を求める。

これは文明の盛衰と大国の興亡が、永遠をかけた戦いを行うのである。

これは、知者は世界に勝り、世界を有するのである。これがユダヤ民族の真実なのである。

これらは新世界秩序における第3次大戦と国際連合における世界政府への移行を有する。

これは、西洋と東洋における最終戦争であり、計画は地理としても否定できない。

義は、世界を覆い、利は、世界を失うのである。